

令和4年度 第2回 蕨市スポーツ推進審議会 会議録

日 時 令和5年3月30日(木)午後2時
会 場 蕨市役所仮設庁舎委員会室

出席委員／ 奥田昌利、佐藤則夫、宮原芳子、篠原美奈子、平田道義
大武勝雄、伊藤祐介、畑中隆一 各委員
欠席委員／ 秋山滋雄、岡部慎一、松田悦典 各委員
事務局／ 松本教育長
加納教育部次長兼生涯学習スポーツ課長
池澤生涯学習スポーツ課スポーツ推進係長
宇佐美生涯学習スポーツ課スポーツ推進係主事

1 開 会

2 あいさつ

奥田会長、松本教育長

3 議長選出

奥田会長を選出

4 前回会議録の承認

承認された。

5 議 事

(1) 令和4年度スポーツ関連事業報告について

上記のことについて、事務局から報告があった。

委 員： 塚越プールを釣り堀として活用した理由は。

事務局： 老朽化のため、修繕しながら利用をしていたが、プールとして営業するとなると安全性が確かではない。また、そのために大規模な修繕が必要となってしまうため、施設の有効活用で釣り堀として運用した。来年度は開業前に点検を行い、どのように利用するかを検討する。

委 員： 様々な施設が老朽化している。総合的な施設で部活など一か所で行えると良いのでは。

教育長： 老朽化した施設を直すのも費用が相当かかるので、釣り堀など有効活用をして対応している。

- 教育長： 小学校のプール老朽化もあり、来年度のプールの授業は西小学校をモデル校として、民間のプールを利用することになっている。西小学校の状況を鑑みながら来年度以降広げられれば。
- 委員： 学校のプールは修繕費が多い。民間に移行できれば、その費用をスポーツの拠点として複合施設の建設などへ利用できるのではないか。
- 議長： 塚越小学校のプールの利用状況はどうか。
- 委員： 6～9月は学校が授業で利用し、それ以外は第一中・東中・武南高校が利用している。しかし、室内プールとして設計を行っていないので、外壁がなく砂煙などが防げず、環境が良いとは言えない。
- また、東中は顧問の先生の手配が出来ず、今いる生徒が卒業したら廃部になってしまう。水泳連盟が補助できるのであれば力になりたいが、及ばないところは民間の企業に力添えしてほしい。
- 委員： ロードレースについて、市街地で難しいと思うが開催してほしい。
- 事務局： コロナ禍以降は地域の方の健康面を考え中止としていた。様子を見ながらコースの変更などを含め模索していく。

(2) 令和5年度スポーツ関連事業計画及び予算について

上記のことについて、事務局から報告があった。

- 委員： 女子サッカー教室とはどのような内容か。
- 事務局： 小学生の女子を中心に募集を行い、放課後の1時間週に1回教室を開催。年間35回を予定している。
- 委員： 競技人口増加を目指しているが、スポーツ少年団までは女子も一緒に参加できる。しかし中学生になると女子サッカーの部活やクラブチームも少なく、続けられる場所がない。女子中学生が続けられる環境づくりがサッカー業界としても課題となっているので、このサッカー教室から発展して環境を整えることに繋がればと考える。
- 委員： 講師はどうするのか。
- 事務局： 委託で行う。講師の資格なども様々あるので、場所なども含め検討中。
- 委員： スポーツ推進委員の報酬が減っているのはなぜか。
- 事務局： 委員改選の年度は最大人数の予算を計上しているが、委員の人数が決定したためそれに合わせた額となっている。
- 委員： 民間温水プール借上げ事業の予算が減っているのはなぜか。
- 事務局： 実績を計上している。
- 委員： 体力テストの結果から市民へのスポーツ推進への反映はできるのか。
- 事務局： 直接市へのフィードバックはない。行った場合結果によって必要な施策を

検討する。

- 事務局：参加者としてはスポーツ協会から動員をしているが、一般参加者は少ない。町会の掲示板など、市民への周知をしたら良いのではないか。
- 委員：スポーツへの動機づけは難しい。参加率を上げるためには、参加者にメリットのあるイベント企画が必要。
- 委員：親の所得格差が子どものスポーツ参加機会を左右していることも問題点。また、少子化も大きな課題。先ほどの廃部の件などなにか支援できないか。
- 教育長：生徒数が少ないと部活が出来ない。少人数の部活を他校とまとめて行う方法も現在行っている。しかし、子供の数に合わせて先生を配置しているため、子供が少なくなれば必然的に先生も減ってしまう。なので、部員数が少ないと廃止せざるを得ない。部活の地域移行もお金や指導者の手配、活動場所など課題が多い。
- 委員：経済産業省の「未来のブカツ」に参加した。部活の地域移行の方法を検討したが、そこでも、「人・もの・金」が課題となった。グループ内では、地域としてスポーツ関連を取り扱う統括団体をつくり、場所の調整や指導者の手配を行うことが最適ではないかと仮定。それには企業のサポートが必要であった。しかしそれだけだと、学校との交渉や責任の所在が明らかではなかったため、改善のために、学校や関係各所と交渉する地域コーディネーターという役割を考案した。その役割には定年退職した先生や校長、PTAなどが適任であると思う。部活を移行するのではなく、子供がスポーツ参加できる場を地域や地域が提供するという考え方が重要である。
- 委員：部活の地域移行に関しては、怪我をした場合や大会の引率など、懸案事項が多く指導者の確保が難しいと聞いたことがある。
- 委員：上尾の部活移行の報告会に参加したが、指導者と生徒の相性や危機管理などが課題であった。また、スポーツ教室という形で行うため、継続性が無い。蕨市としては部活動移行に関して地域の指導者への情報提供がなく、支援をしたいが動き出せない。情報が欲しい。
- 委員：競技団体への周知を行ってほしい。部活間で格差が出ないことを希望する。指導者リーダーバンクなど現状を把握するために良いのではないか。その他、Sport in Life プロジェクトのウォーキングマップなど、蕨の魅力を感じながら運動できる良い企画だった。

6 その他

(1) 令和4年度蕨市体育賞受賞者の報告について

上記のことについて、事務局から報告があった。その他質疑なし。

7 閉 会

佐藤副会長